



明るく たくましい 明世の子

ビカリア

令和5年度
瑞浪市立明世小学校
NO. 11
R6. 1. 31

やってみる（夢をかなえる）

12月末に、大谷選手からグローブが届いたので、2学期終業式で紹介しました。今学期、6年生から順に使っています。グローブは3つ、少年用、小さいもの、左利き用、です。大谷選手にとって、野球は夢と勇気を与えてくれたもの。

「このグローブが、子供たちに夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいる」というメッセージが添えられています。



大谷選手は、高校1年生の時に「目標達成シート」を作ったそうです。目標の「ドラフト1位8球団」を達成するため、「メンタル」「体づくり」「運」「人間性」などの要素を挙げています。「運」を上げるための行動目標として、「ゴミ拾い、部屋掃除、あいさつ、審判さんへの態度、道具を大切に使う、プラス思考、応援される人間になる、本を読む」とあります。「人間性」のところには、「思いやり、礼儀、信頼される人間、感謝」などが書かれています。

これらは、今、学校や児童会が大切にしていることばかりです。掃除、挨拶、学習、ひびきあい活動、なかよし活動、読書。分団登下校、係活動。なんでも、自分を高めること、夢につながるのだと思います。

また、野球はチームで行うスポーツ。自分のことだけ考えていては強くなれない、夢を実現できないといえます。チームメイトに向かって、「あこがれるのをやめましょう。」と声をかけて励ましたり、技術を教え合ったりしたのも、共に高めたいという姿勢の表れだと思います。他人に任せるのではなく、率先して声をかける姿は、まさに、目標達成シートの「仲間を思いやる心」「はっきりとした目標、目的をもつ」「勝利への執念」であり、「頭は冷静に、心は熱く」「愛される人間」を実践していると思いました。

学級も分団もチームです。自分の所属するチームを高めるのはやっぱり自分だ、子ども自身だ、と思います。

さらに、「失敗や挫折の後に、どのように次に進んだか」というインタビューに、「無駄な試合や無駄な練習というのはないと思う。何年続けても結果が出ないという練習の仕方というのはある。それを失敗だと気づいて違うことに取り組めば、そこで一個『発見』があって、それがどんどん成功につながっていくのかなと思っている。」と答えています。分析し、違うことに取り組んで成功につながっているのですね。うまくいかないことがあっても、それを工夫して乗り越える、やり直すことで、高まっていけます。

子どもたちが、あのグローブから「やってみよう」という夢や勇気を感じ、失敗を成功につなげてくれることを願っています。そして、「チーム明世小」を高めていく子どもと、それを支え育てる学校・地域を目指したいです。

それが、災害に強い、助け合いのあるまちづくりにもつながると考えています。

（目標達成シートやインタビュー内容は、日本スポーツ振興センターHP「大谷翔平選手インタビュー」を参照しました。）